

双葉西小だより

令和2年7月27日 文責 学校長 平塚 克人



1学期終了をむかえるにあたって

5月24日（日）の入学式に始まりました1学期も、1年生は47日間、2年生以上は46日間の幕を閉じようとしています。全国的にも第二波がやってきたような新型コロナウイルス感染症ですが、幸いにも県内は感染症レベル1で推移しています。人口密度が47都道府県中32番目であるために不特定多数の人との交わりが少ないということもあるかもしれません。しかし、山梨県民の多くが3密を避けるための努力、マスクの着用、消毒の徹底、不要不急の遠出自粛、ソーシャルディスタンスのキープ等の感染防止に努めている結果の表れと言ってもよいのかもしれませんが。

本学区・地域の特色だと思いますが、多くの皆様方からのお力添えを頂きまして、本校も30日（木）に終業式をむかえることとなります。様々な側面からのご支援、ご協力をありがとうございました。

《地域の皆様へ》

5月下旬までの臨時休校中、「子供たちが外遊びで、大きな声を出したり、頻繁に近づいて遊んだりしているので心配になります。」というようなお電話を頂いたことがありました。おそらく、本校児童を家族のように心配してのお電話だったと思っています。ありがとうございました。夏休み中も多くの眼で子供たちを見守りながら、安全に子供たちが過ごすことができますよう、ご協力をお願いいたします。

《自治会長の皆様へ》

毎月、「双葉西小だより」を各世帯に配布していただいておりますことに深く感謝申し上げます。大変な労力と時間をかけてくださっていることにつきましても重ねて感謝申し上げます。本来ですと、学校の様子を地域の皆様方にお伝えすることは、私ども教職員が行うべき業務ですが、今年度も自治会長の皆様に甘えていますことにつきましては大変恐縮しております。大変申し訳ありませんが、コミュニティ・スクールとして学校から地域への発信を考えていますので、今後ともご協力をお願いいたします。

《学校運営協議会及び学校応援団の皆様へ》

教育活動の大幅な計画変更を行わざる得ない状況にもかかわらず、子供たちのために快く協力して下さったり、学年全体でしたら1回で済む授業もクラスごとに分けて同じ内容で2回話をさせていただいたり、現地での説明ができないので周到な準備をしていただいて体育館や多目的室で授業をしていただいたりと、ご苦労いただきました。また、プール清掃や緑のカーテンの設置はできませんでしたが、環境面（花壇や農園等）でも大変お世話になりました。引き続き2学期もよろしくお願いいたします。

《保護者の皆様へ》

長かった臨時休校で、子供たちも休み中は家にいる時間がほとんどだったと思います。そのため、朝の登校に始まり、授業をはじめとします学校生活にすぐに適応できるかどうか心配していましたが、学校再開後の子供たちの様子からは、長いブランクを感じさせないがんばりを感じました。これも、臨時休校中に保護者の皆様が子供たちの規則正しい生活習慣の継続に努めてくださったおかげだと思えます。ありがとうございました。

《双葉西小学校の子供たちへ》

1学期が当初の予定よりも短くなりましたので、かなり国語や算数の学習が多くなってしまいました。1日に2時間も同じ教科を学習した日もあったことでしょう。また、家庭科や図工、体育、音楽、総合、道徳などをもっと学習したかった人もいたでしょう。プールに入りたかった人もいたでしょう。そのような中でしたが、真剣に授業に向かう姿やそうじの時にきびきびと働く姿、休み時間にあふれる笑顔で友だちと楽しそうに遊ぶ姿は誰が見ても大変素敵でした。光り輝いていました。

児童の皆さんにとりましては例年より短い20日間の夏休みとなります。夏休みは短くなりますが、臨時休校中とは違い、今の状況に合わせた過ごし方をしてください。また、8月20日（木）の2学期始業式では、281人全員と笑顔で会えることを楽しみにしています。

双葉西小学校の夏！ ～多くの手で育てられました～



花壇の向日葵



花壇のダリア等



玄関の日々草等



5年生のバケツ稲



西門のマリーゴールド



1年生の朝顔



2年生のミニトマト



1年生 ポツゴソ



みどり・さくら・ふたば
1・4年のサツマイモ



農園の向日葵



2年生のキュウリとナス



眼を治療中のチョコ



6年生のジャガイモ



4年生のヘチマ



3年生の枝豆



学校応援団と共に：4年水の学習

16日（木）に2組，17日（金）に1組が、今年度も、長年平瀬浄水場に勤務なさっていました石原さんから、詳しい資料・データをもとに話を聴きました。普段は何気なく使っている水ですが、家で使うまでには、多くの行程を経ているということが分かったと思います。



ピッピの会による読み聞かせ

21日（火）にピッピの会の宮崎さんが5年生に読み聞かせに加え、民話「かたれ やまんば」より、「貧乏になれなかった話」を語ってくれました。貧乏になるために千両箱を埋めようとするのですが、逆に千両箱を次々と掘り当ててしまうという落ちで、子供たちも思わず吹き出していました。



我が子でなくても我が子のように ～保護者の行動・活動から～

- ①学校再開後間もない頃のことです。登校班で歩いていた入学したばかりのある1年生が、汗をだらだらと流して苦しそうな顔をしていることに、本校の保護者でありますあるお母さんが、気づきました。その子に声をかけたところ、尿意を催した状態だったそうです。すかさず、そのお母さんは自分の家が近かったので、その子を家のトイレに連れて行き、事なきを得たそうです。大変スピーディーで心温かな対応に感謝申し上げます。
- ②登校時間帯の山本踏切は、通勤時間帯と重なって交通量が多かったり、複数方向からの車両の通過があるために前後左右を注意深く確認したりする必要があります。5・6年生が付いているとは言え、子供たちだけでは大変心配な場所です。そこに、昨年度から、通勤のために塩崎駅を利用する本校の保護者でありますあるお父さんが、乗車する電車が来るぎりぎりの時間まで、毎日旗振りをしてくださっています。そのため、子供たちも安心して山本踏切を通過しての登校ができています。出勤前の大変忙しい時間帯にもかかわらず、子供たちの安全を考えて自主的に、しかも継続しての行動には頭が下がる思いです。ありがとうございます。